

「児童虐待について」

人権とは、すべての人間が生まれながら平等に持ち、誰からも侵されることなく保障されなくてはならない権利です。人が人として幸せに生きていくための権利ともいえます。

ところが、この人権が児童虐待という行為により全く無視されてしまっている問題が起きています。今年3月東京目黒の5歳児虐待死事件は皆様の記憶にも新しいと思います。

「もうパパとママにいわれなくてもしつかりとじぶんからきようよりかもっとあしたはでき

るようになるからもうおねがいゆるしてゆるしてくださいおねがいします。」可愛い盛りの子の女の子が覚えたてのひらがなで、なぜこんな悲痛な思いを綴らなければならなかったのか。この文を読む度、胸が潰れる思いになります。一番安全で安心できるはずの親の手によって命を絶たれる事などあつてはならないことです。

この問題は虐待している親だけを責めても解決しません。社会全体で子どもを育てる、守るといふ考え方、セーフティネット

トが必要です。子育て世代に手当や減税、保育園の整備、ひとり親家庭への援助など解決策は様々あります。国会では、押し問答のような加計学園の問題が一年以上も続いています。未来ある子ども達の命の問題を優先的に取り上げてほしいと切に願います。時代は少子化の一方で、虐待は増え続けています。大人にしか子どもは守れないため、多くの人が少しづつ行動をし、いつの日か虐待という行為がこの世からなくなることを願ってやみません。

東秩父村教育委員

田中 俊哉

☆いきいき男女☆

応援プロジェクト!



大字坂本在住
お名前
大澤宣彦さん
(年齢36歳)

【あなたの日常は?】

長瀬町の宝登山神社に神職として奉仕しています。地元や日本に伝わる古き良き伝統文化を後世に伝えていけるように努めています。趣味はキャンプで、家族や友人たちとキャンプ場に行き、焚き火を囲むことが楽しみです。キャンプをしてみたいけど、どうしたらよいかわからない!という方は、お気軽にお声がけ下さい(笑)

【今後の男女共同参画社会に望むことは?】

地域に伝わるお祭りや民俗芸能等、時代の影響を受けて変化・消滅する可能性があるものを継承・発展させるためには男女の積極的な参画が必要であると考えます。また、男女がともに地域活動やボランティア活動、地域の祭礼などに参加することにより、地域のコミュニティが強化され、地域力の向上にもつながると思います。

* 役場男女共同参画担当から一言

大自然の中、お父さんとキャンプ!楽しい思い出としてお子さんたちの心にいつまでも残るでしょうね。

4月号でご紹介した男女共同参画社会基本法基本理念の5本柱の1つは「家庭生活における活動と他の活動の両立」です。男女が対等な家族の構成員として、家族としての役割を果たしながら、仕事や学習、地域活動等ができるよう、互いに協力する必要があります。



私たちの自慢!

東秩父村においでよ、みんな! —観光情報—

大学生による調査報告&村の未来を語る会 「ムラトーク!」を開催!

8月4日(土)に、大学生による東秩父村地方創生調査報告会と、地域住民と村の未来を語るワークショップ「ムラトーク!」を行い、村内外から約40名が参加されました。

昨年創価大学法学部土井研究室では、地方創生がテーマの調査で2つの班が東秩父村を選び、観光振興プランをまとめました。何度も足を運ぶうちに地域への愛着が生まれ、学生達の熱意に共感した行政や商工会が協力して日帰りツアーを実施することになりました。

まず、地域住民との交流を目的に行った調査発表会では、訪日外国人旅行者向けの交流ツアーの提案、若者向けの新規和紙体験プラン、スマホで車両の配車・決済を行うサービスを活用して観光客の移動円滑化を図ることなどを具体的な事例を交えながら提案があり、観光ツアープランが発表されました。他に、3月末で任期終了となった東秩父村地域おこし協力隊の活動報告が行われました。

第2部の「ムラトーク!」では、テーマに沿って語りながら東秩父村を再認識し、最後に「東秩父村アンバサダー宣言!」を書き、それぞれが取り組みたいことを考えてもらいました。活発な意見交換が行われ、参加者からは、村の新たな魅力を知ることができた、世代を超えたムラトークが楽しかったという感想や、学生からは、村民の方が暖かくて優しく感動した、村の魅力は地域の方から引き出されていると思ったという感想をいただきました。

提案をもとにした日帰りツアーは10月13日(土)に実施予定で、内容は地元住民との交流や郷土料理作り、老舗和菓子屋が教える和菓子作り体験などを予定しています。

